

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	上越市こども発達支援センター（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数) 52
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの目標や様子について、保護者と情報共有を行いやすい。	保護者と発達支援を振り返る時間を設け、活動のねらいや子どもの良い姿、関わり方などを共有している。	保護者と一緒に子どもの発達や実態の理解を深め、必要な情報を提供をできるようにします。
2	保育園等と連携を図りやすい。	園情報シートや園訪問を通して、こどもの様子を共有し、支援方法を一緒に考えている。	発達支援が家庭や保育園等での生活にいかせる支援となるよう、園訪問やモニタリング会議等の機会を通して、地域との話し合いを継続します。
3	こどもの実態を捉え、遊びを通した支援プログラムである。	複数の職員でこどもの実態を捉えている。	こども発達支援センター内だけでなく、家庭や保育園、他事業所等と一緒にこどもの実態を捉え、一人一人に合った支援を行うよう努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流できる場が少ない。	3歳以上児については、通所による個別支援を前提とするため、親同士の出会いの場が少ない。	今年度、新たに「子育て応援講座」を開催し、発達等に悩みを抱える家族が交流できる機会の確保に取り組みました。一方で、保護者の参加できる機会は依然として限られていることから、引き続き、機会の拡充に向けた検討を進めます。